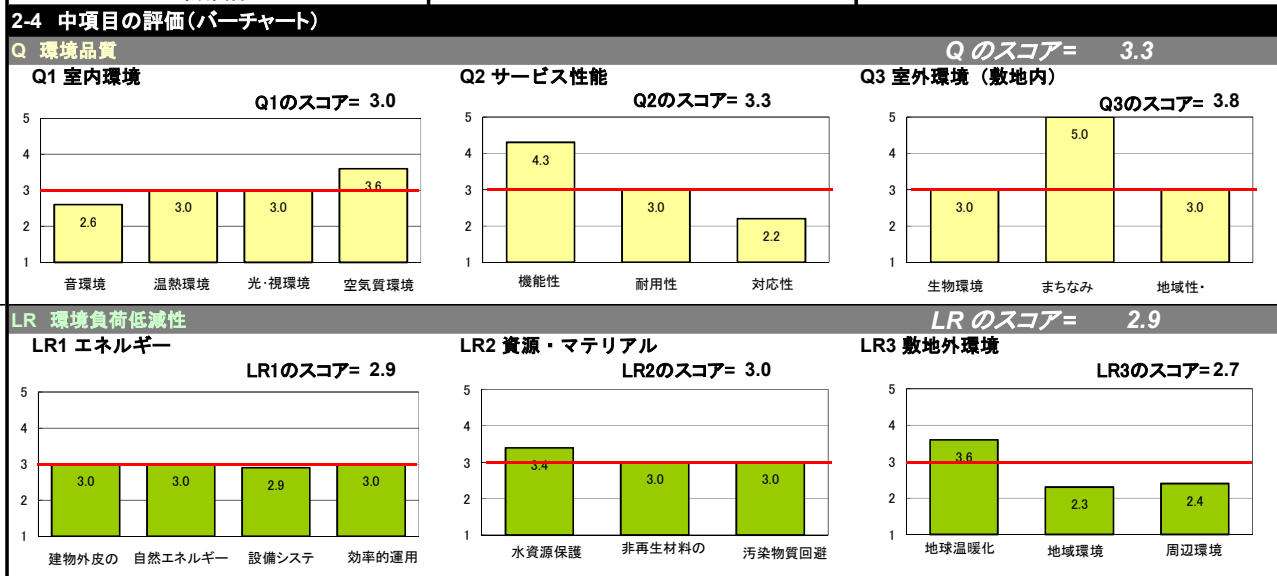
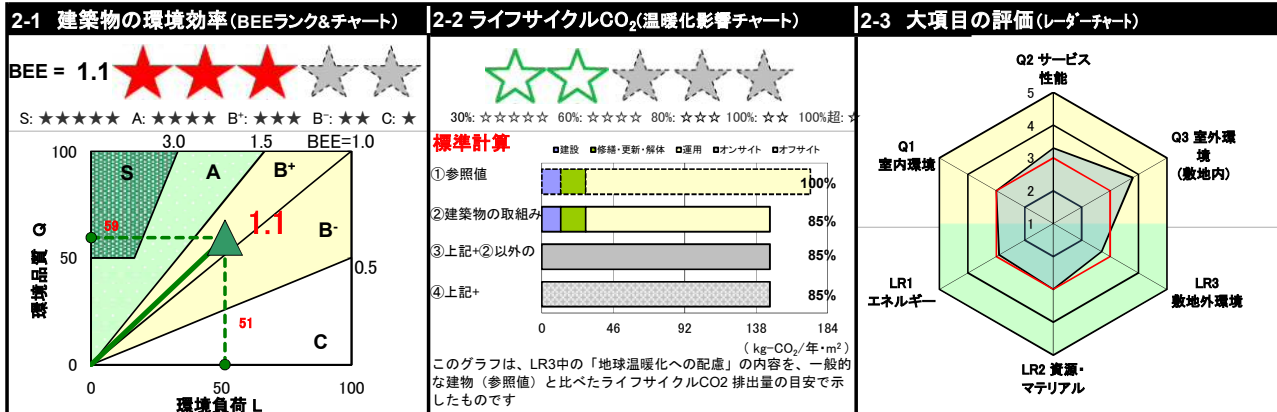




1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)特養手稲ロータス		階数	5
建設地	札幌市手稲区稲穂3条6丁目228番-8、-9		構造	RC造
用途地域	準工業地域		平均居住人員	80 人
			年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院		評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2019年4月	予定	評価の実施日	2018年12月1日
敷地面積	4,365 ㎡		作成者	ビープラン 深瀬
建築面積	1,055 ㎡		確認日	2019年12月1日
延床面積	4,102 ㎡		確認者	





3 設計上の配慮事項			
総合 建物を高層とすることにより基礎、防水などの建築コストの削減に配慮。		A 省エネルギー 平面形状を最小限に抑え外皮面積を最小限とし、冷暖房費などに配慮。	
B 省資源等 高効力ボイラー、節水型衛生器具、LED照明、人感センサーなどを採用し省エネルギー化に配慮。		C 緑化 敷地の20%以上に植樹や張芝などの緑地を整備し緑化に配慮。	
		D 雪処理 敷地内に十分な駐車場スペースを設け、冬場の堆雪スペースなどに利用。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3)

(仮称)特養手稲ロータス

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
Q 建築物の環境品質									3.3
Q1 室内環境				0.40		-			3.0
1 音環境			2.6	0.15	2.6	1.00			2.6
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40	3.0	0.40			
1.2 遮音			3.0	0.40	3.0	0.40			
1 開口部遮音性能			3.0	0.40	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能			3.0	0.60	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	3.0	0.20			
1.3 吸音			1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境			3.1	0.35	3.0	1.00			3.0
2.1 室温制御			3.3	0.50	3.0	0.50			
1 室温			3.0	0.38	3.0	0.57			
2 外皮性能	省エネ		3.0	0.25	3.0	0.43			
3 ゾーン別制御性		各階、各ユニットごとにゾーニングし、ユニットの居間、食堂にエアコンを設置。	4.0	0.38	-	-			
2.2 湿度制御			3.0	0.20	3.0	0.20			
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境			3.0	0.25	3.0	1.00			3.0
3.1 昼光利用			3.0	0.30	3.0	0.30			
1 昼光率			3.0	0.60	3.0	0.60			
2 方位別開口			-	-	-	-			
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策			3.0	0.30	3.0	0.30			
1 昼光制御	省エネ		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 映り込み対策			-	-	-	-			
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境			3.5	0.25	3.6	1.00			3.6
4.1 発生源対策			4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆100%使用	4.0	1.00	4.0	1.00			
4.2 換気			3.0	0.30	3.0	0.38			
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能			3.0	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理			3.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視			-	-	-	-			
2 喫煙の制御			3.0	1.00	-	-			

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.3
1 機能性			4.2	0.40	4.4	1.00	4.3
1.1 機能性・使いやすさ			5.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性	各居室とも12.9㎡以上確保し、クローゼットを設置。	-	-	5.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3	バリアフリー計画	移動円滑化基準を満たす。	5.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	3.5	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	天井高2,500mm以上	-	-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3	内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理			4.5	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計	汚染性に配慮した材料選定。	5.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保	ゴミ庫の設置。	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	3.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			3.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	耐震架台の設置。	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用。	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電設備の設置。	3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			2.3	0.30	2.2	1.00	2.2
3.1 空間のゆとり			2.4	0.30	2.4	0.50	
1 階高のゆとり			2.0	0.60	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30	2.0	0.50	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			2.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			2.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出	緑化		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化	道路からの建物離隔確保、落ち着いた外観の色彩、植樹	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	2.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	二重サッシ、ペアガラスの採用。	3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.82	2.9	0.50	-	-	2.9
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型器具の使用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減	省資源		3.0	1.00	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	-	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	-	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源		-	-	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	1.00	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-	-	-	
1 消火剤	省資源			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源			-	-	-	-	
3 冷媒	省資源			-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2排出の削減を考慮		3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止	省資源			-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 蓄熱			2.0	0.67	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.33	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 質処理			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.4	0.33	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	0.33	-	-	
2 振動				3.0	0.33	-	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制				1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency

CASBEE札幌

重点項目
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

1 建物概要

建物名称	(仮称)特養手稲ロータス	BEE	1.1	BEEランク	B ⁺
建物用途	病院				
延床面積	4,101.7 m ²				

2 重点項目への取り組み

レーダーチャート



3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 23.1 最低点 6.6)				合計 13.7点 /23.1点	
Q1 温熱環境	スコア	0.6 /1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	2.4 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.3 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	5.8 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 /4.0
B 省資源等 (最高点 21.6 最低点 6.2)				合計 12.8点 /21.6点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.4 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	0.0 /0.0
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.6 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	1.8 /4.2
C 緑化 (最高点 16.1 最低点 3.2)				合計 11.4点 /16.1点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.7 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.3 /3.3
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	6.0 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3			
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計 1.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数